

1 学習指導と評価の改善・充実

～キャリア教育の視点を踏まえた学習指導等の工夫～

職業教育とキャリア教育は、ともに将来の職業や仕事と深くかかわって行われる教育活動であることから、両者の活動内容や目標等に様々な共通点がある。そのため、職業教育の取組は、進路指導とともにキャリア教育の中核をなすものである。

しかし、従来、職業教育の取組においては、専門的な知識・技能を習得させることに重きが置かれ、生徒のキャリア発達をいかに支援するかという視点に立った指導が、必ずしも十分ではなかった。これからの職業教育においては、生徒が働くことの意義や専門的な知識・技能を習得することの意義を理解し、その上で、将来の職業を自らの意思と責任で選択し、専門的な知識・技能の習得に意欲的に取り組むことができるよう、指導の充実を図ることが大切である。

また、看護教育においては、近年、看護基礎教育終了時点の能力と看護現場で求められる能力のギャップ、新卒看護師の医療事故の増加、就職1年目の離職率の上昇などの課題が医療現場から指摘されており、医学や看護学などの進展に伴う医療・看護技術の高度化に対応し、安全で確実な看護を提供する職業人を養成するため、キャリア教育の視点を踏まえた、将来のスペシャリストとなる能力・資質を高める指導の充実がますます重要になってきている。

また、生徒の学習成果の評価においても、キャリア教育の視点を踏まえた、観点別評価の工夫・改善を一層図ることが大切である。

2 「確かな学力」を育成する取組の改善・充実

～キャリア教育の視点を踏まえた学習指導の改善・充実～

(1) 5年一貫看護師養成課程における科目構成の明確化

キャリア教育は、学校のキャリア教育に関連ある様々な取組が教育課程に適切に位置付けられ、計画性と系統性を持って実施することが重要であることから、5年一貫看護師養成課程における教育課程を、キャリア発達の支援という視点から検証し改善していくことが必要である。そのためには、各教科・科目の領域・分野の関連する活動を再検討し、それぞれのねらいや内容等を踏まえながら、相互の有機的な関連付けを図り、生徒のキャリア発達を支援する体系的な教育課程の編成ができるよう、5年一貫看護師養成課程における科目構成を明確にすることが必要である。

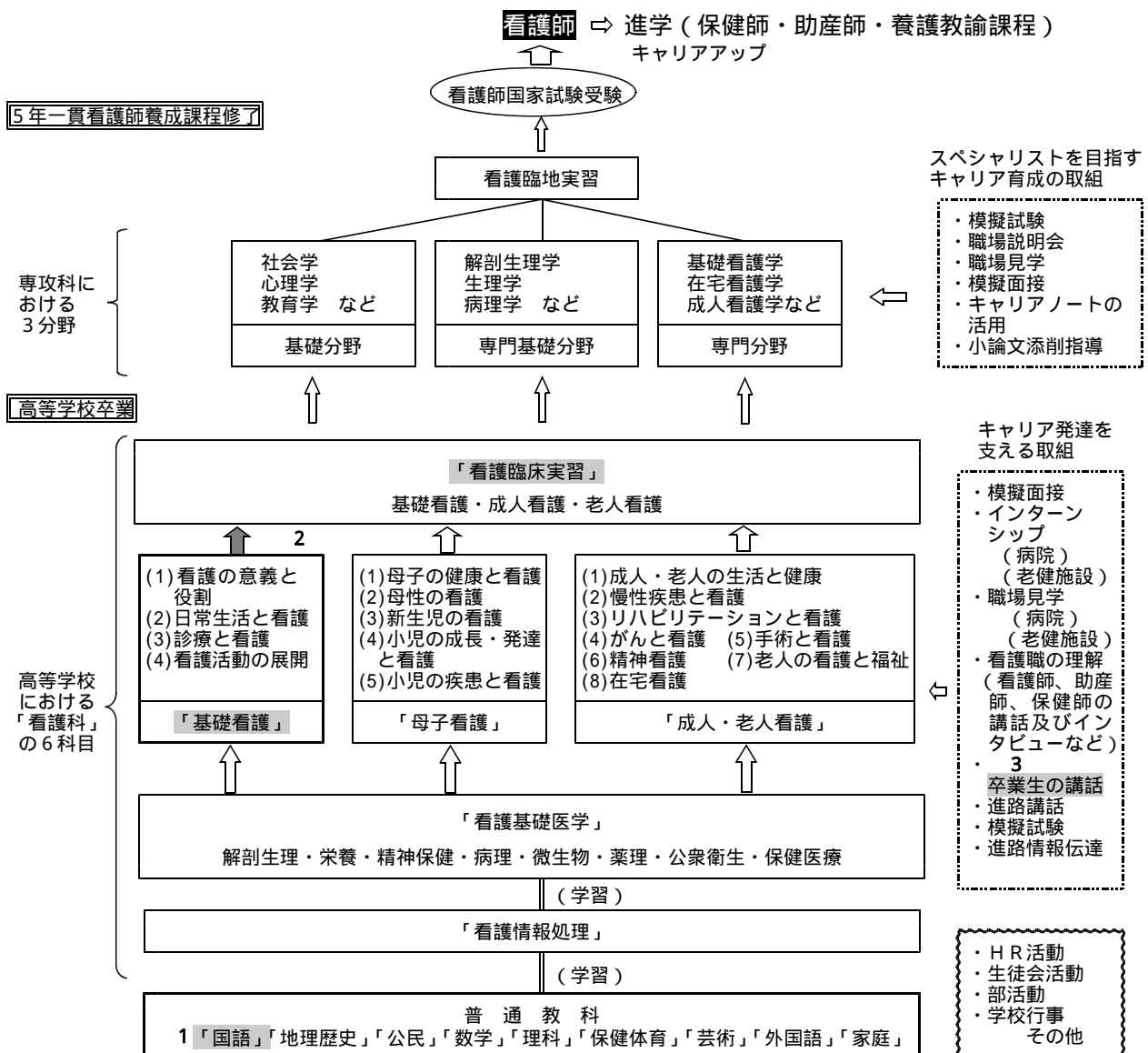
(2) 普通教育との連携による指導

キャリア教育は普通教育で行う場合もあれば、職業教育で行う場合もある。普通教育におけるキャリア教育は、当該教科の学習を通して、自己の生き方を探究したり、将来就きたい職業や仕事への関心・意欲を高めたり、目指すべき職業や上級学校の学部・学科を選択する力を身に付けたりすることなどが考えられる。一方、職業教育におけるキャリア教育は、自己の目指す将来の職業に関する知識や技能を習得したり、職業に関する具体的な情報を得たりすることを通して、将来のスペシャリストとして必要な資質・

能力を身に付けることの意義を理解し、専門的な知識・技能をより高めようとする意欲や姿勢を身に付けることなどが考えられる。それぞれにおけるキャリア教育は、キャリア発達の各段階において相互に補完的・発展的な役割を担うことが大切であるため、普通教育と職業教育が連携を密にしてキャリア教育に取り組むことが必要である。

特に、すべての教科の基本となる国語力を育成することは、キャリア教育を進める上においても重要であり、看護科目においても十分連携を図ることが大切である。看護を学ぶ多くの生徒が入学後初めてぶつかる難関は、看護科目の教科書にある難しい看護医学用語の読み方や書き方、その意味の理解であるため、普通教科「国語」の学習が重要である。できるだけ早い時期に看護医学用語を理解することが専門教科の学習をスムーズに進める上で大切であることから、ここでは科目「国語総合」との連携を図った学習指導計画と看護医学用語テストの例を示す。

5年一貫看護師養成課程における科目構成（例）



1 との連携については、P 117に記載。

2 における関連については、P 118に記載。

3 については、P 120に記載。

網掛けの部分については、本手引に記載した科目や取組例である。

科目「国語総合」との連携（例）

科目「国語総合」における看護医学用語の習得を目指す学習指導計画（例）

1 目的	看護の専門性の基礎である看護医学用語の読みや書き取りができ、その用語の意味を理解する。
2 対象・方法	1学年対象とし、国語の授業の始まり10分間に看護医学用語の読みと書き取りの小テストを実施する。
3 内容	(1) 看護科目の既習の内容を中心に読み・書き取りテストを実施する。(補充的学習) (2) 実施後、テストで出題された看護医学用語について、所定のカード(はがき大厚紙)に意味を調べさせ、提出させる。(発展的学習) (3) 提出したカードは、50音順で見出しを付けて整理し、生徒自作の『看護医学用語豆辞典』として活用させる。

科目「国語総合」における看護医学用語テスト（例）

看護医学用語テスト	衛生看護科	1学年	組	番	氏名	点数	点
【問題】次の1～10に挙げた用語のひらがなは漢字に、また漢字はその読みを書きなさい。							
1 えんげ	()	2 あんぼう	()		
3 おかんせんりつ	()	4 かんげつねつ	()		
5 きこうたい	()	6 吃逆	()		
7 褥瘡	()	8 不感蒸泄	()		
9 落屑	()	10 薬札	()		
【課題】1～10までの用語の意味を調べカードにまとめ、月 日まで提出しなさい。							

(3) 看護科目の科目間の関連を図った学習指導と評価

ア 科目「基礎看護」と「看護臨床実習」における学習指導

(ア) 科目「基礎看護」と「看護臨床実習」の学習内容の関連

科目「基礎看護」は、看護の基礎的な知識と技術を習得させるとともに、看護を行うための基礎的な能力・態度の育成を図るものであり、看護に関する学科では、原則としてすべての生徒に履修させる科目である。また、科目「看護臨床実習」は、看護に関する各科目において習得した知識と技術を臨床の場において活用し実践する経験を通して、看護観をはぐくみ、問題解決の能力を養うとともに、臨床看護を行うために必要な能力と態度を育成するものである。看護職者として安全で確実な看護を提供するためには、この2つの科目の関連を図った学習指導が必要である。

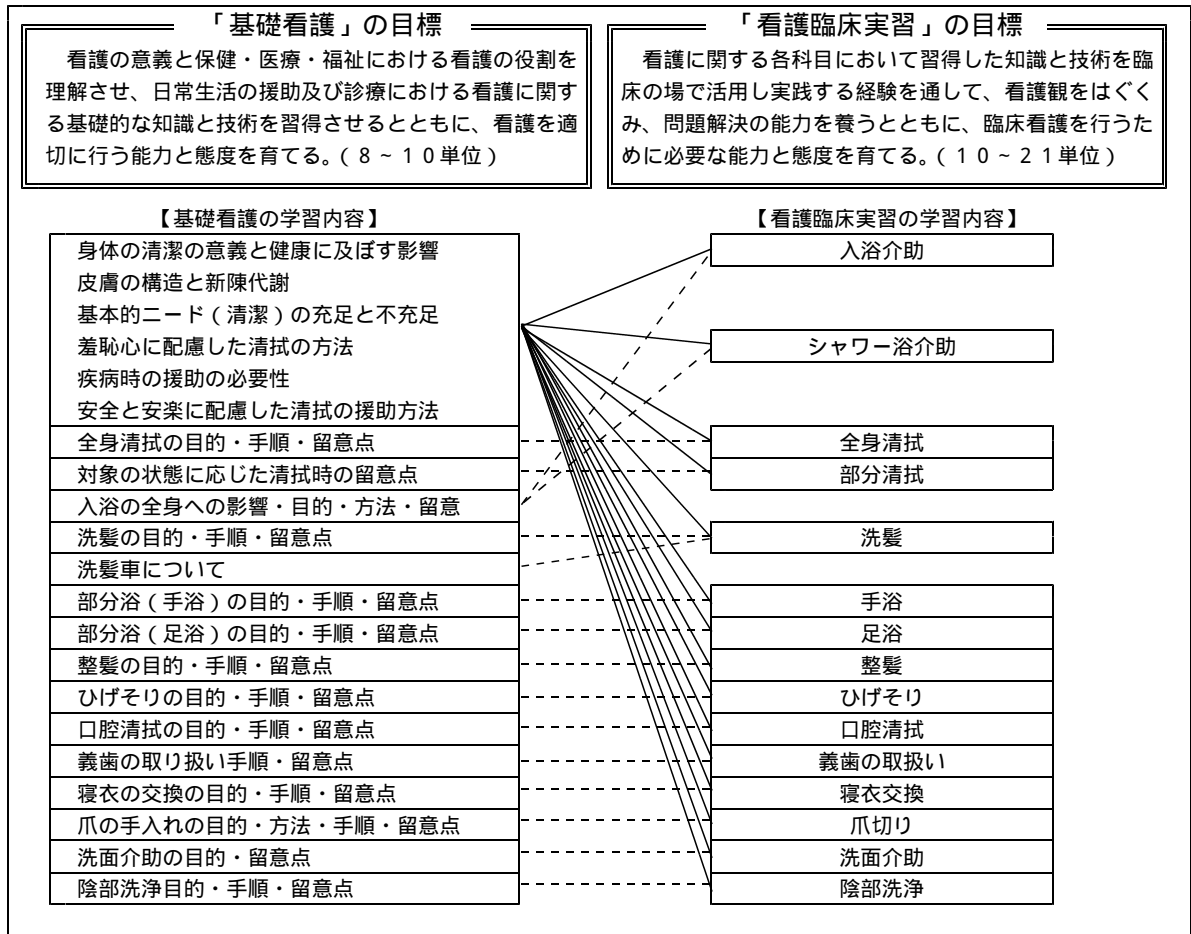
次ページの図は、科目「基礎看護」の単元「(2)日常生活と看護 カ 身体の清潔」の学習項目と、科目「看護臨床実習」との関連を示したものである。「基礎看護」の導入部分である「身体の清潔の意義と健康に及ぼす影響」の学習内容は、「看護臨床実習」のすべての項目に関連があり、その他の項目は「看護臨床実習」の項目のそれぞれに対応している。このような関連性を踏まえ、「基礎看護」では、科学的な知識の裏付けによる援助の必要性を理解させるとともに、その援助方法を、看護医療用具や器具等の実物・模型の提示や師範、教室で実施できる簡単な実習など、実践的・体験的な学習を取り入れ習得させることが必要である。

(イ) 将来のスペシャリストを意識させた学習指導

科目「基礎看護」の単元「(2)日常生活と看護 カ 身体の清潔」の学習内容は、看護職に就いた時の日常の仕事内容であるため、科目「看護臨床実習」における実習項目と一致している。そのため、科目「基礎看護」の校内実習の指導に当たっては、単に技術の習得を図るだけでなく、対象者やその症状などを具体的に設定して、

看護職に就くことを強く意識させながら実施することが大切である。

科目「基礎看護」(2)日常生活と看護「カ 身体の清潔」と科目「看護臨床実習」の関連図



(4) 個に応じた学習指導と評価

ア 自己評価の活用

生徒のキャリア発達を支援するためには、生徒自身が自らを適切に評価しながら自己理解を深めていくことができるよう、指導と評価を工夫することが大切である。そのためには、生徒一人一人の状況を把握し、個に応じた学習指導を行うとともに、評価計画表の内容のまとめごとにより自己評価を取り入れるなど評価の工夫が必要である。自己評価は、自らの学習を振り返らせることにより、自己の学習課題を明確にさせ、次時の学習の目標を捉えさせることができる。さらに、自己評価の結果を活用した面談などを行うことにより、生徒一人一人の学習課題に応じた指導の充実を図ることができる。なお、自己評価を行う際、自己評価票に「知識・理解」を評価する設問を設け解答させると、自己評価の信頼性や妥当性を高めることができ、生徒の自己評価力の育成にもつながる。

また、自己評価と併せて生徒による授業評価を実施することにより、それぞれの評価結果を参考に、学習計画や評価方法等が妥当なものであったかを検証し、授業改善を図ることも大切である。

科目「看護臨床実習」場面における自己評価票（例）

臨床実習内容 (身体の清潔) 【予定回数】	実習 の 段階	実施日	自己評価					教師からのコメント
			意欲的な取組	対象の観察	コミュニケーション	安全・安楽な実施	総合評価	
全身清拭 【3回】		7 / 5	B	C	C	A	C	(7/15) 回数を重ねるたびに評価がよくなったね。しっかり取り組みました！
		7 / 10	A	B	B	A	B	
		7 / 15	A	A	A	A	A	
シャワー浴 介助 【3回】		7 / 11	A	C	B	C	C	(7/19) シャワーの扱いに苦労していたね！大丈夫！家でも練習してごらん！
		7 / 14	A	C	B	B	B	
		7 / 18	A	B	A	B	B	
足浴 【予定5回】								
寝衣の交換 【予定5回】								

実習の段階（生徒が実習を行う際の段階・レベル）について

- ～教員や看護師の助言、指導により生徒が単独でできるもの
- ～教員や看護師の指導、監視のもとで生徒が実施できるもの
- ～原則として看護師や医師の実施を生徒が見学するもの

総合評価について

A = CがひとつもなくAが3つ以上の場合 B = 総合評価AとC以外の場合 C = Cが2つ以上あった場合

総合評価Cとなった生徒への手立てについては、実習簿で方法等を確認させるとともに、自己学習ノートにまとめさせ、再評価する。

イ 個人内評価の工夫

キャリア教育を進める上で、教師が最も大切にしなければならないことは、子どもたち一人一人のキャリア発達をきめ細かく支援し、温かく支えていくことである。各学校においては、生徒一人一人の状況を的確に把握し指導するとともに、生徒自身が自己のよさや可能性に気付き、夢や希望の実現に向けて努力する過程を組織的、継続的に指導・援助していくことが大切である。そのためには、生徒一人一人のよい点や可能性、進歩の状況などを評価する、個人内評価を重視することが必要である。目標に準拠した評価では、ある生徒が努力の結果、「おおむね満足できると判断される状況（B）」から「十分満足できると判断される状況（A）」に近づいたとしても、評価の結果は（B）のままになっている場合がある。このようなとき、例えば教師が、「回数を重ねるごとにずいぶん上手に介助できるようになってきたね。」「てきぱきと動けるようになってきたね。」などと、生徒の進歩の状況を積極的に認めて評価することが、個人内評価であり、生徒の学ぶ意欲を一層高めることができる。個人内評価の工夫としては、授業中における声かけによる形成的評価や、ペーパーテストの点数欄の横や自己評価票にコメントを付記することなどが考えられる。個人内評価を行う場合の教師の視点としては、共感的に生徒の姿をとらえることをはじめ、生徒のよさや、今、何ができているのかに注目することなどがあげられる。このように、必要に応じて目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）に個人内評価を加味することが大切である。

(5) 特別活動など教科以外のキャリア教育

看護師を目指し入学してきた生徒の、看護職への高い関心や意識を、5年間持続させ、生徒のキャリア発達を支援していくことは、5年一貫に移行した看護師養成課程における課題であることから、各教科・科目はもとより、学校の教育活動全体を通してキャリア発達を支援する必要がある。そのため、例えば、「看護臨床実習」の事前指導の時間や特別活動の時間に「卒業生による講話」を実施して、看護職に就こうとする意欲の向上や、看護師国家試験の合格に向けた学習への意識付けを図るなど、すべての教科等においてキャリア教育に取り組む必要がある。

卒業生による講話における記入プリント（例）

「看護師として働くために」 講師 病院 看護師 さん（平成 年卒業）

衛生看護科 年 番 氏名	
講話を聞く前に	1 あなたが看護師を目指そうと思ったきっかけは何ですか？ <input type="text"/>
	2 看護師を目指すに当たって、あなたが不安に思っていることや課題と考えていることは何ですか？ <input type="text"/>
	3 看護師として働くに当たって、疑問に思っていることなどを先輩に質問してみましょう。 _____ _____ _____
ここでいったん提出です！	
講話を聞いて	4 講話を聞いて考えたことをまとめてみましょう。 <input type="text"/>
	5 看護師として働くに当たって自分に不足している資質や能力は何か、まとめてみましょう。 <input type="text"/>
	6 講話をしてくださった先輩へ何か一言！お伝えしたいことなど書きましょう。 <input type="text"/>
7 卒業生の講話を聞き終えて、改めて看護師を目指す意気込みや抱負を書きましょう。 <input type="text"/>	
講話実施日に集めます！	
講話の評価	8 卒業生の講話の実施に関して評価して下さい。（該当する回答に を付けること。） 卒業生の講話内容は参考になりましたか。 【とても参考になった・まあまあ参考になった・あまり参考にならなかった・全く参考にならなかった】 卒業生の講話は続けて欲しいですか。 【続けて欲しい・今年度だけでよい】 講話を聞くあなたの態度はよかったですか。 【とてもよかったと思う・まあまあよかった・あまりよくなかった・全くよくなかった】 講話を聞く前と今では、看護師になりたい気持ちに変化はありましたか。 【なりたいたく強く思うようになった・なりたいたく思うようになった・変化はなかった・前より不安が大きくなった】 自分が看護師になって講話するとしたら、どんなテーマで後輩に話したいと思いますか。 ()